

区民アンケート分析結果

1 分析の視点

1 分析の視点

アンケート結果を施策・取組つながら課題やニーズの抽出、水と緑の配置方針図の検討に用いることを目的に次の点に着目して分析

①地区別の特徴

地区別（居住地）のクロス集計において、全体の集計結果と比較して差が生じている項目を地区の特徴として抽出し分析

②まちの魅力としての緑の満足度の要因

まちの魅力としての緑に満足している層と不満を感じている層の回答結果から、差が生じている項目を抽出し、必要性の高い取組を分析

③水辺の利用に関する意向

- ・世代別のクロス集計から全体の結果と比較して差が生じている項目の分析
- ・「葛飾中川かわまちづくり社会実験※¹」来場者アンケートより、回答者の9割以上が「良かった」「やや良かった」と感じたことから、水辺への親しみの醸成、利用促進に必要な視点を分析

※1 葛飾中川かわまちづくり社会実験 水辺を楽しむ大実験！

④協働の必要性に対する意識や活動への参加につなげるための視点

「緑や水辺によって、まちを今より魅力的にするためにしてみたいこと」について、協働の必要性を感じている割合がやや低い世代に着目して、活動への参加促進に必要な視点を分析



2 地区別の特徴

- ・地区別のクロス集計において、全体の集計結果と比較して5～10ポイント以上の差が生じている項目を、当該地区の特徴として抜粋して記載。

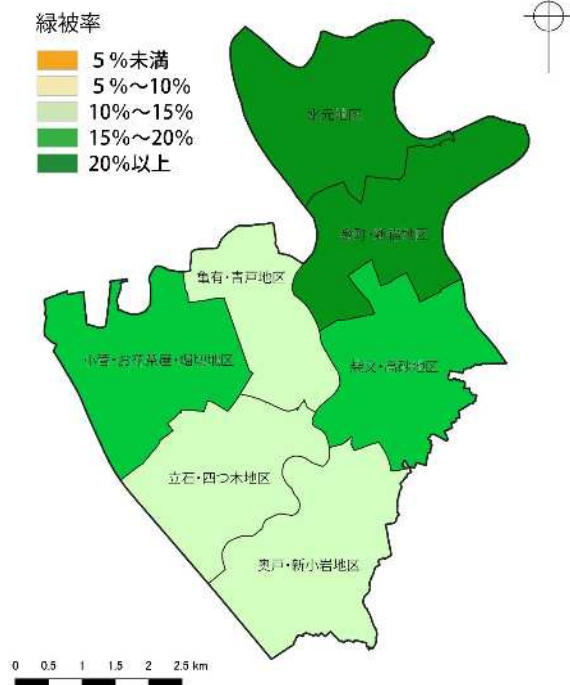
<資料中の記号>

【高】 【低】 回答者全体の集計結果（％）と比較し10ポイント以上の差がある

【やや高】 【やや低】 回答者全体の集計結果（％）と比較し5ポイント以上10ポイント未満の差がある

7 地区の緑被率と 区民アンケートにおける緑・水辺・公園に対する意識

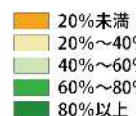
地区別の緑被率



区民アンケートにおける意識

住まい周辺の
緑の量

住まい周辺の緑の量
「多い+やや多い」



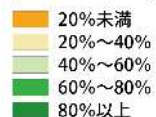
「まちの魅力を
高める」という
要素としての
緑の満足度

「まちの魅力を高める」という
要素としての緑の満足度
「満足+どちらかというと満足」



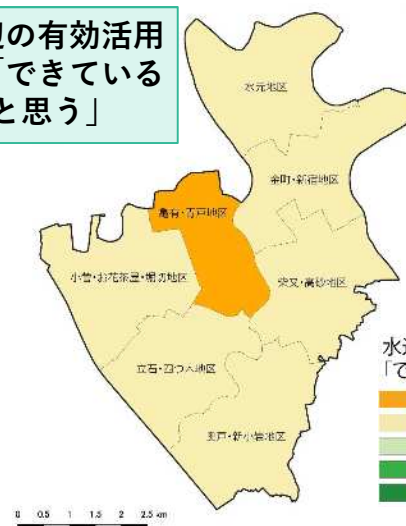
住まい周辺の
公園の量

住まい周辺の公園の量
「多い+やや多い」



水辺の有効活用
を「できている
と思う」

水辺の有効活用
「できていると思う」



結果の概要

水元地区	・ 緑、公園に対する満足度は高く、水辺の利用頻度も高い。 ・ 農地の減少を他地区よりも感じており、保全と手放される農地の有効活用のニーズがある。 ・ 一戸建て住宅の緑化への支援が求められており、ガーデニングの取組意向も高い。
金町・新宿地区	・ 緑、公園に対する満足度は高く、公園の利用頻度は高い。 ・ 水辺の自然環境への関心がみられる。
柴又・高砂地区	・ 河川敷の風景が葛飾らしい風景と捉えられている。また、社寺林のある風景も他地区よりも多く選ばれている。 ・ 公園を利用しない割合がやや高い
亀有・青戸地区	・ 他地区に比べて緑被率が低く（緑被率12.3%）、実感としても緑は多くない。 ・ 道路沿いのせせらぎや大きな木のある道路が葛飾らしい風景として捉えられている。
小菅・お花茶屋・堀切地区	・ 緑よりも水辺（河川敷、道路沿いのせせらぎ）が葛飾らしい風景として捉えられている。
立石・四つ木地区	・ 他地区に比べて緑被率が低く（緑被率12.3%）、実感としても緑は多くなく、身近なところに緑が少ないと捉えられている。 ・ 公園の緑の充実、街路樹や公共施設の緑の維持管理の充実や古くなった公園のリニューアルへのニーズが高い。
奥戸・新小岩地区	・ 親水テラスのある河川の風景が葛飾らしい風景として捉えられている。 ・ 区の取組へのニーズ、今後（も）してみたいことに関する設問全体をとおして「特にない」を選択した割合が高い。

(1) 水元地区

緑被率
28.0%



緑・公園に対する意識

- 住まい周辺の緑の量
【高】 多い・やや多いの合計
- まちの魅力を高めるという要素としての満足度
【高】 他地区より満足度が高い
- 公園の量
【高】 多い・やや多いの合計
- 緑が減ったと感じる場所
【やや高】 公園・農地
- 緑を増やしていく必要がある場所
【やや高】 一戸建ての住宅

☆小学生の
公園利用頻度高

葛飾らしい緑・水辺の風景

- 多数の回答者が選んだ風景
大きな芝生広場のある公園
河川敷の風景
- 他地区との比較
【高】 大きな芝生広場のある公園
【やや高】 植栽が豊かな住宅の街並み

水辺に対する意識

- 多数の回答者が選んだ親しみを感じている水辺
大場川・水元小合溜
- 水辺の利用頻度 【やや高】 月1回以上利用 ※ 週3～月1回の合計

区の実組へのニーズ

- 緑 【やや高】 農地の減少を防ぐため、手放される農地を有効活用する
一戸建て住宅の緑化への支援を拡充する
- 水辺 【やや高】 キッチンカー、カフェなど飲食ができる場所や機会を増やす
水辺でのイベントやマルシェなど、区民がやりたいことをできる仕組みをつくる
- 公園 【やや高】 木陰をつくる大きな樹木を増やす

今後（も）してみたいこと

- 緑に関する活動 【高】 自宅でのガーデニング（※）
【低】 特になし

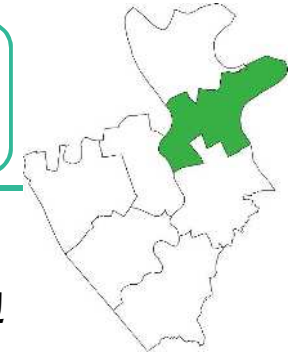
※「緑や水辺によって、まちを今より魅力的にするためにしてみたいこと」でも「ガーデニング【やや高】」

まとめ

- ・ 緑・公園に対する満足度が高い。
- ・ 水辺の利用頻度が高い。
- ・ 農地の減少を他地区よりも感じており、保全と手放される農地の有効活用のニーズがある。
- ・ 一戸建て住宅の緑化への支援が求められており、ガーデニングの実組意向も高い。
- ・ 水辺の活用や公園における大きな樹木についてもニーズがある。

(2) 金町・新宿地区

緑被率
23.3%



緑・公園に対する意識

- 住まい周辺の緑の量
【高】 多い・やや多いの合計
- まちの魅力を高めるという要素としての満足度
【高】 他地区より満足度が高い
- 公園の利用頻度 ※ 週3～月1回の合計
【やや高】 月1回以上 ☆小学生も利用頻度高
- 公園の量
【やや高】 多い・やや多いの合計

葛飾らしい緑・水辺の風景

- 多数の回答者が選んだ風景
河川敷の風景 / 大きな芝生広場のある公園
- 他地区との比較
【高】 河川敷の風景 / 社寺林のある風景
【やや高】 大きな芝生広場のある公園

水辺に対する意識

- 多数の回答者が選んだ親しみを感じている水辺
荒川、江戸川の河川敷 / 大場川・水元小合溜
- 今後行いたい水辺の利用
【高】 自然観察

区の取組へのニーズ

- 緑 【高】 マンション、団地やビルの建築時の緑化指導や緑化への支援を拡充する
【やや高】 街路樹や公共施設の緑の維持管理を、より充実させる
- 水辺
【やや高】 水辺に近づきやすくなるよう、施設の整備や改修を行う
鳥、昆虫などの生きものが生息できる植栽や水辺を充実させる

今後（も）してみたいこと

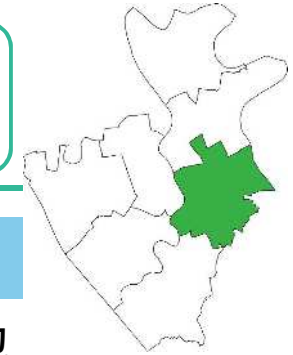
- 緑に関する活動
【やや高】 樹林や草花を楽しむ、感じることを目的とした公園利用・散策
自然観察
公園や自宅周辺の清掃や除草・花壇活動など地域の活動への参加

まとめ

- ・ 緑、公園に対する満足度は高く、公園の利用頻度は高い。
- ・ 水辺の自然環境に関心がみられる。
- ・ マンション等建築時の緑化指導や支援、水辺に近づきやすくする施設整備のニーズがある。
- ・ 清掃や除草・花壇活動など地域の活動への参加などへの関心もやや高い。

(3) 柴又・高砂地区

緑被率
18.7%



緑・公園に対する意識

- 住まい周辺における緑量の過去10年の変化
 - 【やや高】減ったと感じる場所はない
 - 【やや高】増えたと感じる場所はない
- 普段の公園の利用方法
 - 【やや高】利用しない

水辺に対する意識

- 多数の回答者が選んだ親しみを感じている水辺
 - 荒川、江戸川の河川敷
 - 中川・新中川の親水テラス
- 今後行いたい水辺の利用
 - 【やや高】ウォーキング、ジョギングなど健康づくり

葛飾らしい緑・水辺の風景

- 多数の回答者が選んだ風景
 - 河川敷の風景
- 他地区との比較
 - 【高】社寺林のある風景
 - 【やや高】河川敷の風景

区の実組へのニーズ

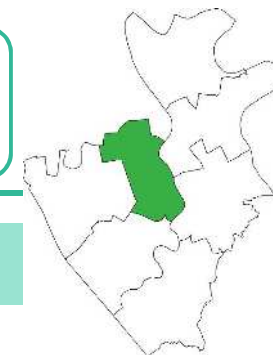
- 公園 【やや低】木陰をつくる大きな樹木を増やす
 - ※ その他の特徴
「古くなった公園をリニューアルする」が、立石・四つ木地区に次いで高い

まとめ

- ・ 住まい周辺における緑量の変化を感じていない割合がやや高い。
- ・ 「河川敷の風景」が葛飾らしい風景と捉えられている。また、社寺林のある風景も他地区よりも多く選ばれている。
- ・ 公園を利用しない割合がやや高い。

(4) 亀有・青戸地区

緑被率
12.3%



緑・公園に対する意識

- 住まい周辺の緑の量
【やや低】多い・やや多いの合計

葛飾らしい緑・水辺の風景

- 多数の回答者が選んだ風景
道路沿いのせせらぎ
- 他地区との比較
【高】大きな木のある道路
【やや高】道路沿いのせせらぎ

水辺に対する意識

- 多数の回答者が選んだ親しみを感じている水辺
中川・新中川の親水テラス
特にない

区の実組へのニーズ

- 公園
【やや高】目的や気分によって公園を選べるように、公園ごとに特色を持たせる

今後（も）してみたいこと

- 緑や水辺によって、まちを今より魅力的にするために
してみたいこと
【やや高】自然観察・生きもの調べなど自然
に関わるイベントや活動への参加

まとめ

- ・ 他地区と比べて緑被率が低い地区（緑被率12.3%）であり、実感としても緑は多くない。
- ・ 道路沿いのせせらぎや大きな木のある道路が葛飾らしい風景として捉えられている。
- ・ 公園ごとに特色を持たせることへのニーズがやや高い。
- ・ 自然に関わるイベントや活動への参加についての関心がやや高い。

(5) 小菅・お花茶屋・堀切地区

緑被率
18.2%



緑・公園に対する意識

- 住まい周辺の緑の量
【やや低】 多い・やや多いの合計
- ☆ 小学生「緑がたくさんある場所」
【高】 川沿い

水辺に対する意識

- 多数の回答者が選んだ親しみを感じている水辺
荒川、江戸川の河川敷

葛飾らしい緑・水辺の風景

- 多数の回答者が選んだ風景
河川敷の風景
道路沿いのせせらぎ
- 他地区との比較
【高】 道路沿いのせせらぎ

今後（も）してみたいこと

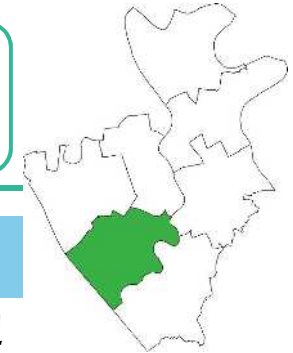
- ☆ 小学生「緑がある場所でこれからしたいこと」
【高】 ごみ拾いや落ち葉掃除などのボランティア活動

まとめ

- ・ 緑よりも河川敷、道路沿いのせせらぎなどの水辺が葛飾らしい風景として捉えられている。
- ・ 小学生のボランティア活動に対する関心が高い。

(6) 立石・四つ木地区

緑被率
12.3%



緑・公園に対する意識

- 住まい周辺の緑の量
【やや低】 多い・やや多いの合計
- まちの魅力を高めるという要素としての満足度
【やや高】 他地区より不満度がやや高い
- 緑に触れる機会がない理由
【高】 身近なところに緑が少ない
- 緑を増やしていく必要がある場所
【高】 公園

葛飾らしい緑・水辺の風景

- 多数の回答者が選んだ風景
大きな芝生広場のある公園
道路沿いのせせらぎ

水辺に対する意識

- 多数の回答者が選んだ親しみを感じている水辺
荒川、江戸川の河川敷
- 今後行いたい水辺の利用
【やや高】 水辺の公園で遊ぶ
休息

区の実組へのニーズ

- 緑
【やや高】 街路樹や公共施設の緑の維持管理を、より充実させる
- 公園
【やや高】 古くなった公園をリニューアルする

まとめ

- ・ 他地区と比べて緑被率が低い地区（緑被率12.3%）であり、実感としても緑は多くなく、身近なところに緑が少ないと捉えられている。
- ・ 公園の緑の充実に関心が見られ、街路樹や公共施設の緑の維持管理の充実や古くなった公園のリニューアルへのニーズがやや高い。
- ・ 水辺の公園で遊ぶことや休息することへの関心がやや高い。

(7) 奥戸・新小岩地区

緑被率
13.2%



緑・公園に対する意識

- 住まい周辺の緑の量
【低】 多い・やや多いの合計
- まちの魅力を高めるという要素としての満足度
【低】 他地区より満足度が低い
- 公園の量
【低】 多い・やや多いの合計
- 普段の公園利用方法
【やや高】 利用しない

水辺に対する意識

- 多数の回答者が選んだ親しみを感じている水辺
荒川、江戸川の河川敷

区の実情へのニーズ

- 【やや高】 緑、水辺、公園それぞれのニーズに関する質問で「特にない」を選択した割合

葛飾らしい緑・水辺の風景

- 多数の回答者が選んだ風景
大きな芝生広場のある公園
親水テラスのある河川の風景
- 他地区との比較
【高】 親水テラスのある河川の風景

今後（も）してみたいこと

- 【やや高】 緑に関する活動で「特にない」を選択した割合
- 【やや高】 緑や水辺によってまちを今より魅力的にするためにしてみたいことで「特にない」を選択した割合

まとめ

- ・ 他地区と比べて緑被率が低い（緑被率13.2%）地区であり、まちの魅力を高めるという要素としての緑に対する満足度が低い。
- ・ 親水テラスのある河川の風景が葛飾らしい風景と捉えられている。
- ・ 区の実情へのニーズ、今後（も）してみたいことに関する設問全体をとおして「特にない」を選択した割合が高い。

3 「まちの魅力を高める」という要素 としての緑の満足・不満の要因

(1) 「まちの魅力を高める」という要素としての 緑の満足度による意識差

「まちの魅力を高める」という要素としての緑に満足している層と不満を感じている層で回答者全体の集計結果（％）と比較して差が生じている設問結果

<表中の記号> 【高】 【低】 回答者全体の集計結果（％）と比較し10ポイント以上の差がある
【やや高】 【やや低】 回答者全体の集計結果（％）と比較し5ポイント以上10ポイント未満の差がある

設問	「まちの魅力を高める」という要素としての緑に満足している層* (*満足・やや満足の計)	「まちの魅力を高める」という要素としての緑に不満を感じている層* (*不満・やや不満の計)
住まい周辺の緑の量	多いと感じている	少ないと感じている
緑が多いまたは身近に感じる場所	【高】 公園 【やや高】 河川沿い、道路	【やや低】 公園、道路
緑が増えたと感じる場所	【高】 公園 【低】 増えたと感じる場所がない	【低】 公園 【高】 増えたと感じる場所がない
緑が減ったと感じる場所	—	【高】 一戸建て住宅の庭や生け垣 【やや高】 道路、農地、駅前、マンションや団地 【低】 減ったと感じる場所がない
今後増やしていく必要がある緑	—	【高/やや高】 農地を除く項目 【低】 特にない

住まい周辺に緑が多いと感じており、公園、河川沿い、道路で緑を身近に感じている

住まい周辺に緑が少なく、減っていると感じている
満足している層より緑化の必要性を強く意識

(1) 「まちの魅力を高める」という要素としての 緑の満足度による意識差

「まちの魅力を高める」という要素としての緑に満足している層と不満を感じている層で回答者全体の集計結果（％）と比較して差が生じている設問結果

設問	「まちの魅力を高める」という要素としての緑に満足している層* (*満足・やや満足の計)	「まちの魅力を高める」という要素としての緑に不満を感じている層* (*不満・やや不満の計)
暮らしのなかで 緑があって よかったと感じる時	※「満足」と回答した層 【高】 緑のある景色に癒される 子育て環境に良い 葛飾らしい個性が感じられる	【高】 自然環境の豊かさが感じられる 美しい街並みが保たれる
緑に触れる機会を 持たない理由	【やや高】 時間がない	【高】 身近なところに緑が少ない 【やや高】 時間がない
葛飾らしいまたは葛 飾の魅力だと感じる、 緑や水辺の風景	【高】 大きな芝生広場のある公園 【やや高】 大きな木のある道路	【やや高】 自然豊かな川の風景
住まい周辺の公園の 量	多い、やや多いと感じている	少ない、やや少ないと感じている
公園の利用頻度	※「満足」と回答した層 【高】 週1回以上利用	—

公園を比較的高い頻度で利用しており、
利用を通じて緑の豊かさをしていると推測

自然、景観を形作るものとして緑を重視
身近に緑、公園が少ないと感じている

(2) まとめ

満足度を高めている主な要素

公園、道路、河川沿いなど、
緑を身近に感じる環境があること
(特に、公園の利用が、緑の豊かさを実感する
機会になっていると推測される)



不満を感じさせている要素

身近な場所での緑の少なさ、緑の減少



- 公園や水辺の魅力を高め、利用してもらうことで、緑を身近に感じる機会を増やしていくことが満足度を高めていく上で重要
- 緑の豊かさが感じられる公共施設や道路空間（沿道含む）の形成、身近な場所（住宅、駅前、団地・マンション等）での緑の確保も重要なポイント
- 公園や水辺も含まれるみどり率は23区中4番目であるものの、引き続き地区別の緑被率が低い地区において、緑を身近に感じられる緑化を進めていくことが重要

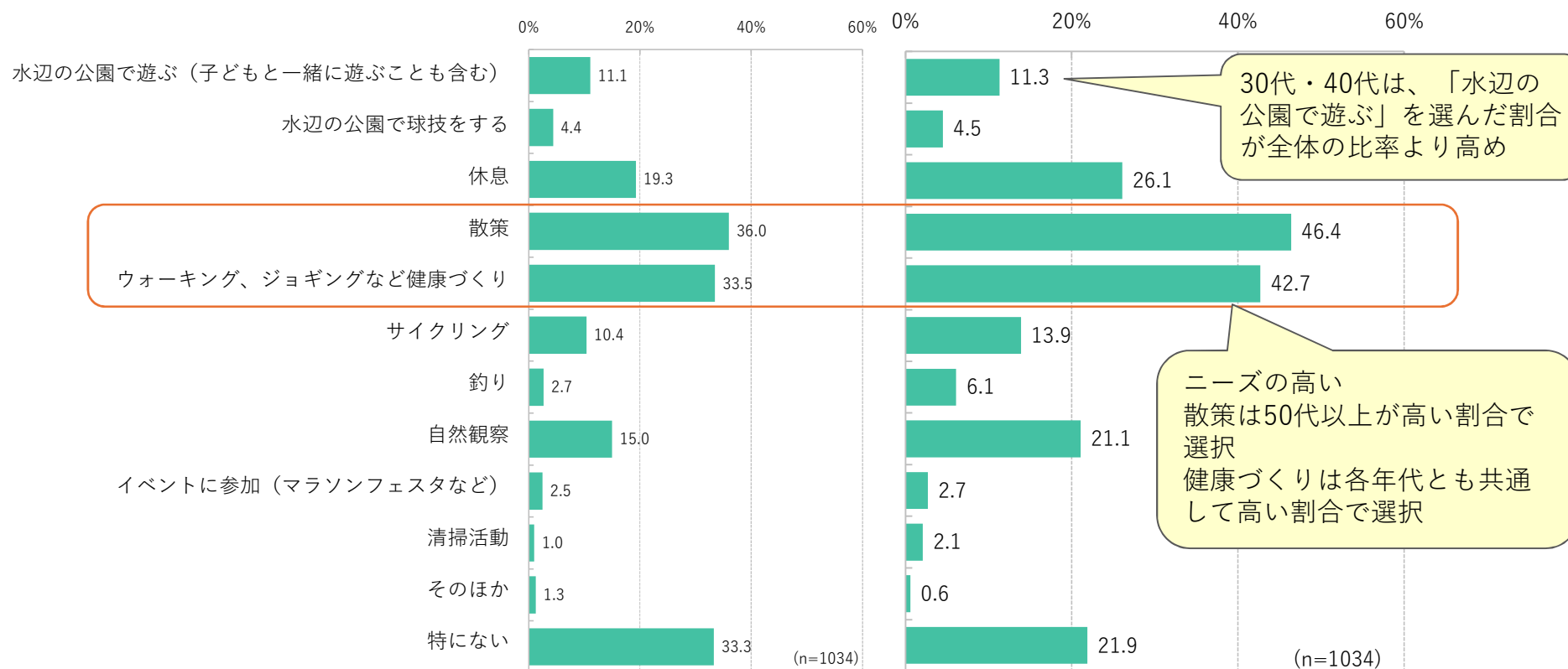
4 水辺の利用に関する意向

（１）区内の水辺で普段していること・これからしたいこと

一般区民の回答

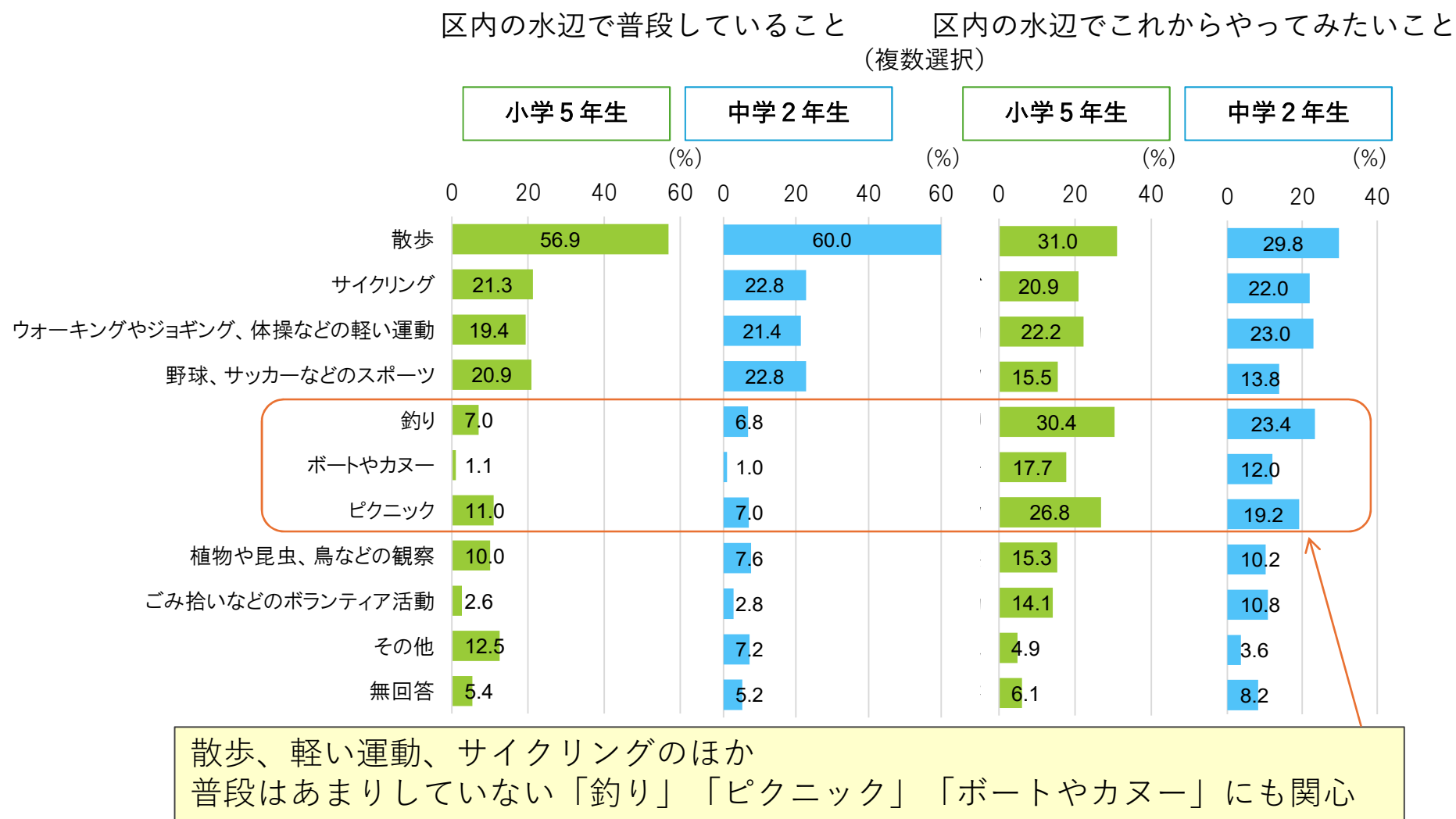
普段の水辺の利用方法（複数回答）

今後（も）行いたい水辺の利用方法（複数回答）



（１）区内の水辺で普段していること・これからしたいこと

小・中学生の回答



(2) 「葛飾中川かわまちづくり 水辺を楽しむ大実験！」※

①来場者アンケート

中川の水辺活用に対する評価

中川の水辺でくつろぎ空間を創出したり
催しを実施したりすることについては、
いずれの地区でも高く評価

※ 各地区のかわまちづくりのソフトの取組について
賑わいの創出などに向けた試行的なイベントとして
令和6年11月下旬～12月中旬に区内4地区で開催

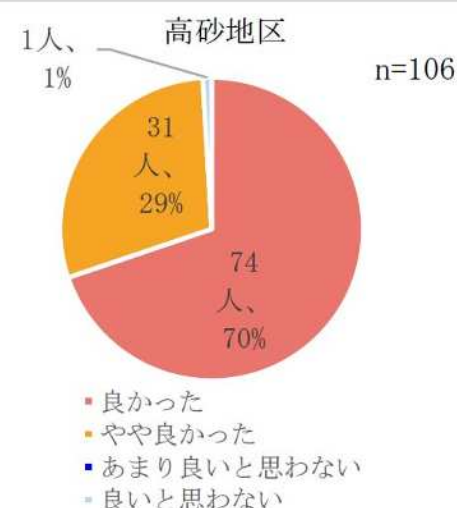
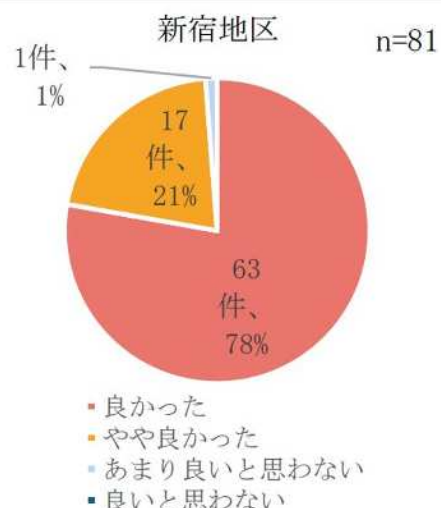
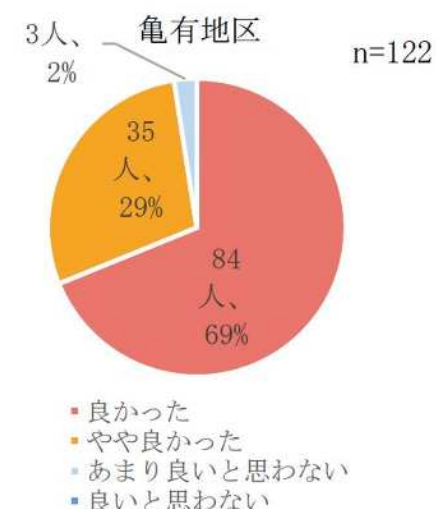
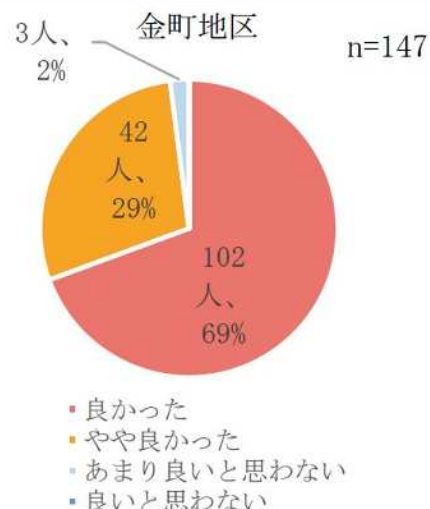
葛飾中川かわまちづくり 2024水辺を楽しむ大実験 亀有地区会場（令和6年12月1日実施）

・12月1日（日）11～16時
・水辺の探検
・展示（かわまちづくり）
・くつろぎ体験（パラソル、ベンチ等）
・キッズカー
・和太鼓ワークショップ
・亀有の「なつかし写真」等パネル展示
・警察・消防団ブース（午前のみ）



パラソル等の設置によるくつろぎ体験

かわまちづくりの展示ブース・アンケートの回答者



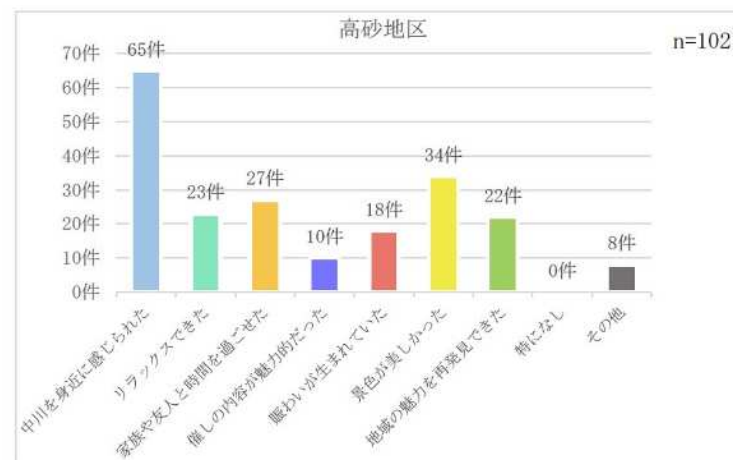
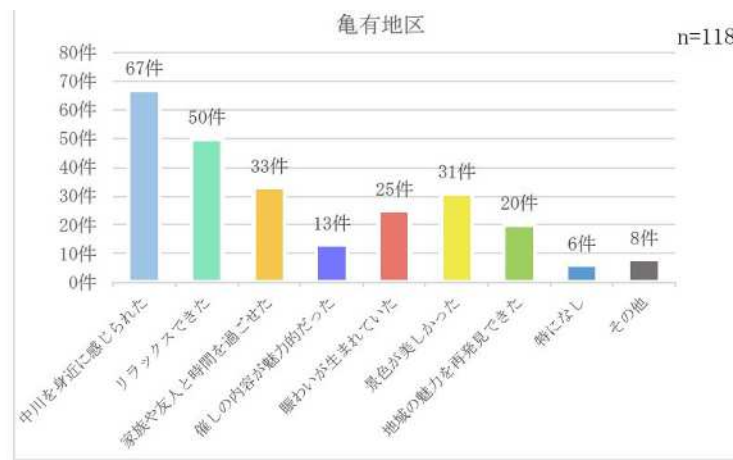
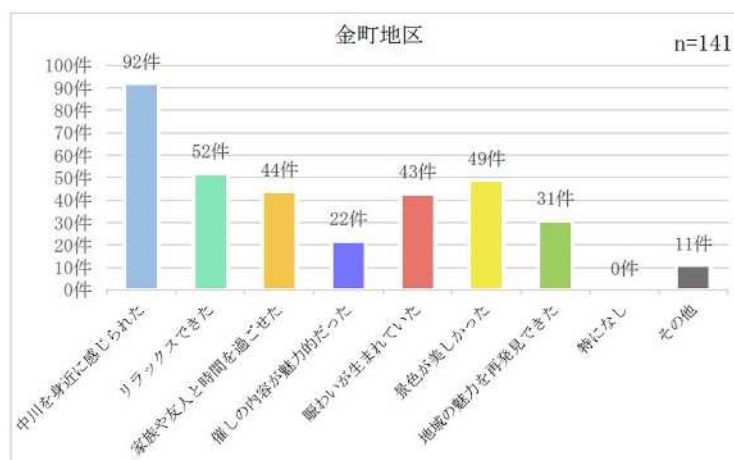
(2) 「葛飾中川かわまちづくり 水辺を楽しむ大実験！」

①来場者アンケート

中川の水辺活用に対する評価

「良かった」「やや良かった」と回答した理由【複数回答】

- 全地区において「中川を身近に感じられた」が最も多い
- 「リラックスできた」「家族や友人と時間を過ごせた」「景色が美しかった」との回答も多い



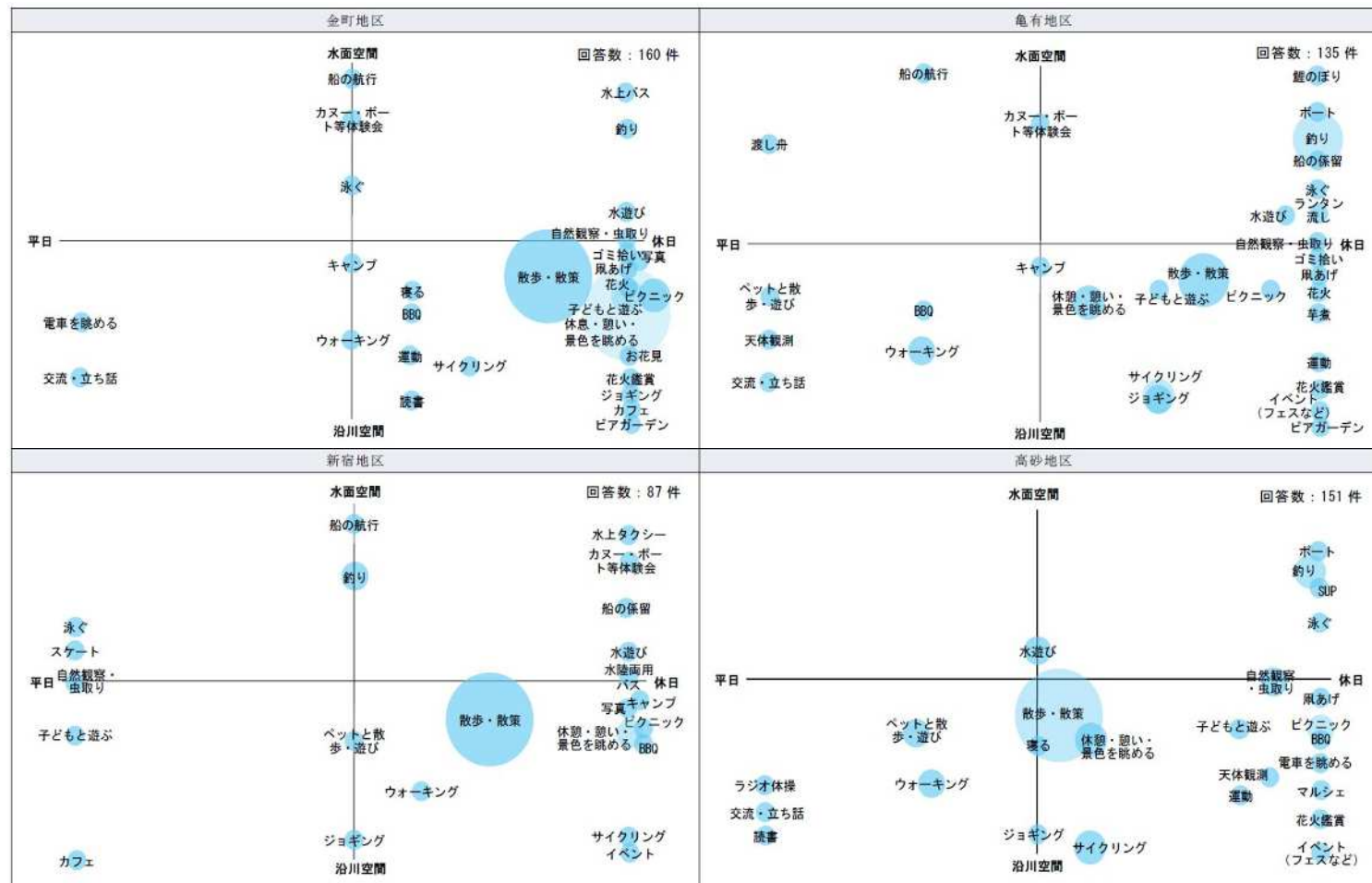
出典：葛飾中川かわまちづくり計画推進支援業務委託報告書

(2) 「葛飾中川かわまちづくり 水辺を楽しむ大実験！」

② イベント会場ワークショップ

中川の水辺でどのように過ごしたいか、いつその過ごし方をしたいか

- 「散歩・散策」「釣り」など、区民アンケート、小・中学生アンケートでのニーズと共通する利用のほか、水面を利用する「カヌー・ボート等体験会」「船の航行」なども挙げられている



(3) まとめ

アンケートから読み取れる ポイント

(一般区民アンケートと小・中学生に共通して見られた点)

散歩・散策、ウォーキング等の軽い運動など、普段していることが、これからやりたいことに挙がっている

(一般区民アンケート)

30～40代は、(子どもと)水辺の公園で遊ぶことが、他の年代より高い割合

(小・中学生アンケート)

普段はあまりしていない「釣り」「ピクニック」「ボートやカヌー」が、これからやりたいことに挙がっている

(「葛飾中川かわまちづくり 水辺を楽しむ大実験！」来場者アンケート)

中川の水辺でくつろぎ空間の創出や催しを行うことは、高く評価

水辺を利用することで、川を身近に感じられたことが評価のポイント

水辺の利用促進 の課題

普段の利用とは異なる利用のイメージが持てていないのが現状であり、**様々な利用の体験機会を通じて、ニーズを顕在化**していくことが重要

ニーズを顕在化させる取組の戦略として、**親子で水辺を楽しめる機会をつくる**ことは選択肢の一つ

実際に水辺を訪れて利用してみることが、満足度を高めていく上で重要

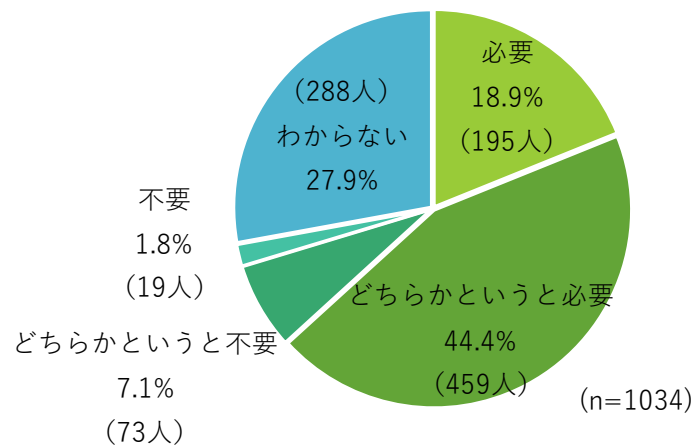
5 協働に関する世代別の意識・意向

(1) 協働の必要性に対する意識

緑化推進や水辺の活用によるまちの魅力向上のための協働の取組の必要性

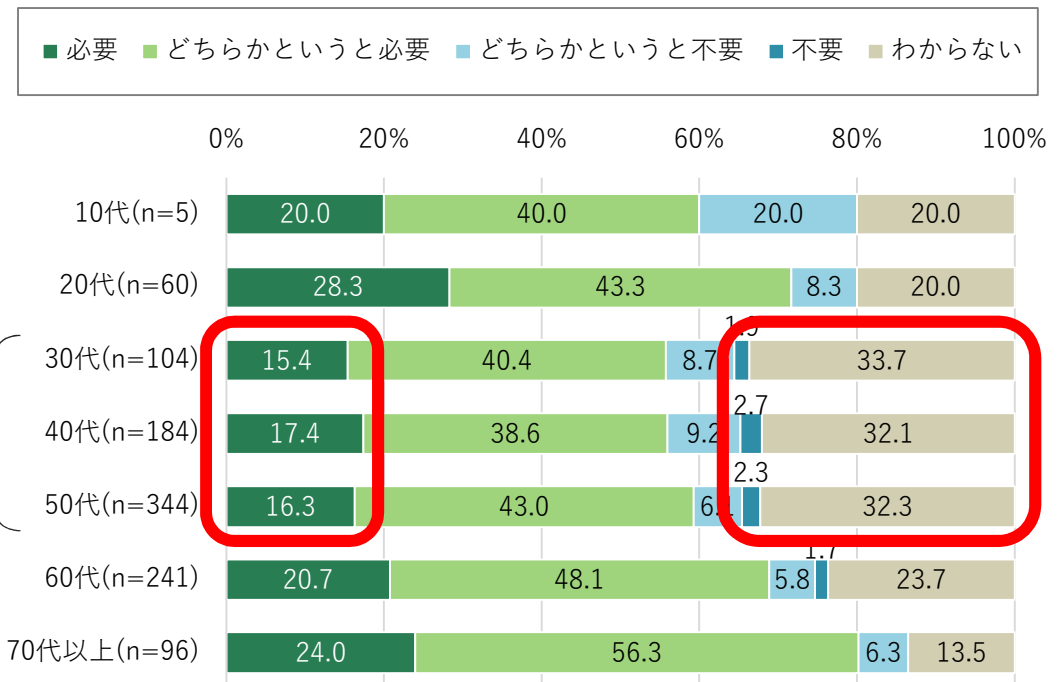
◇ 20代、60代及び70代以上において必要性を感じている人の割合が高く、30代から50代はやや低い。

【全体の集計結果】



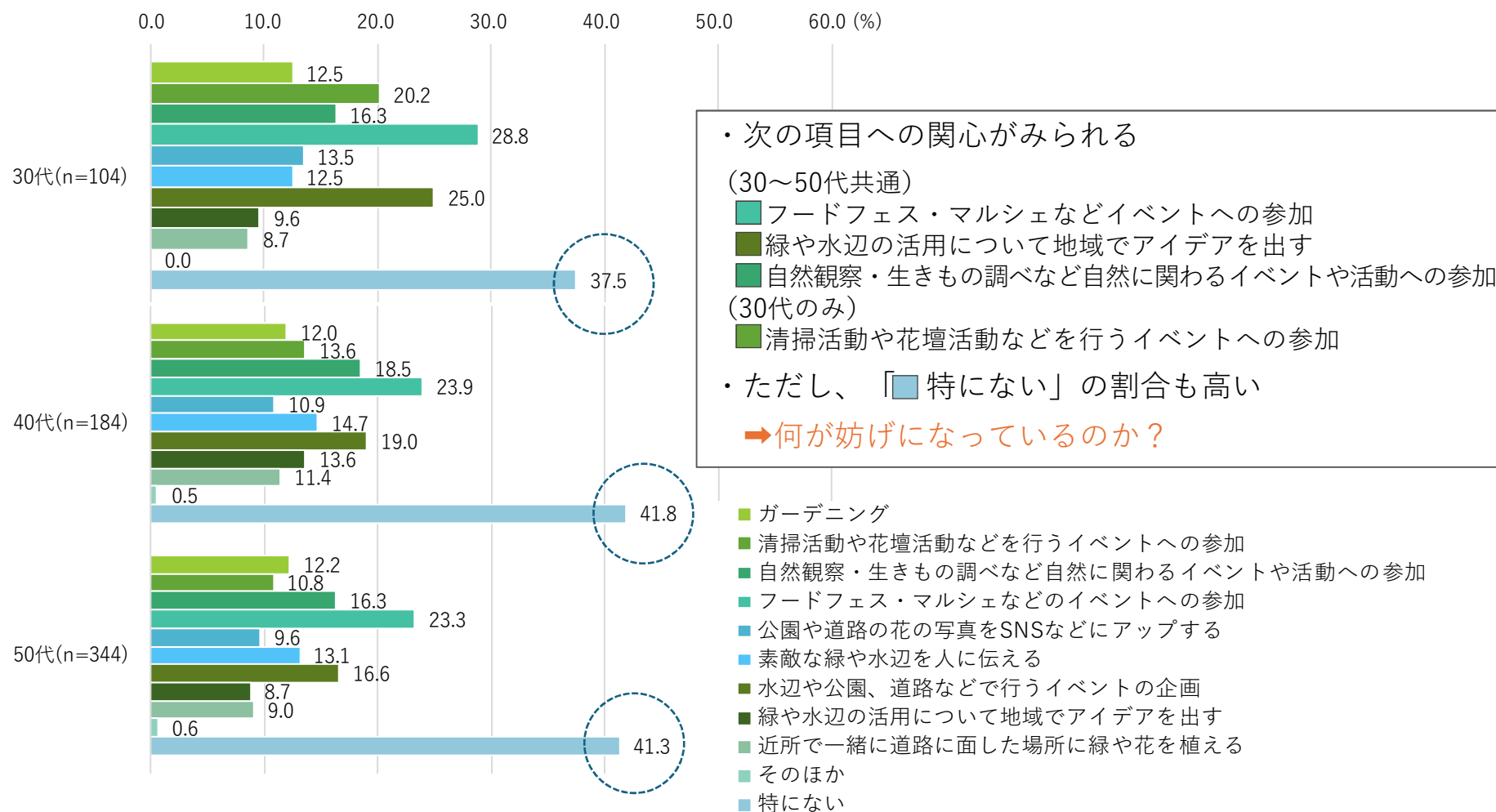
協働の必要性を感じている割合がやや低く、かつ「わからない」と回答した割合が高い30代・40代・50代に着目して、回答者がしてみたい取組、妨げとなっていることを抽出

【世代別の集計結果】



(2) 30～50代が「してみたいこと」

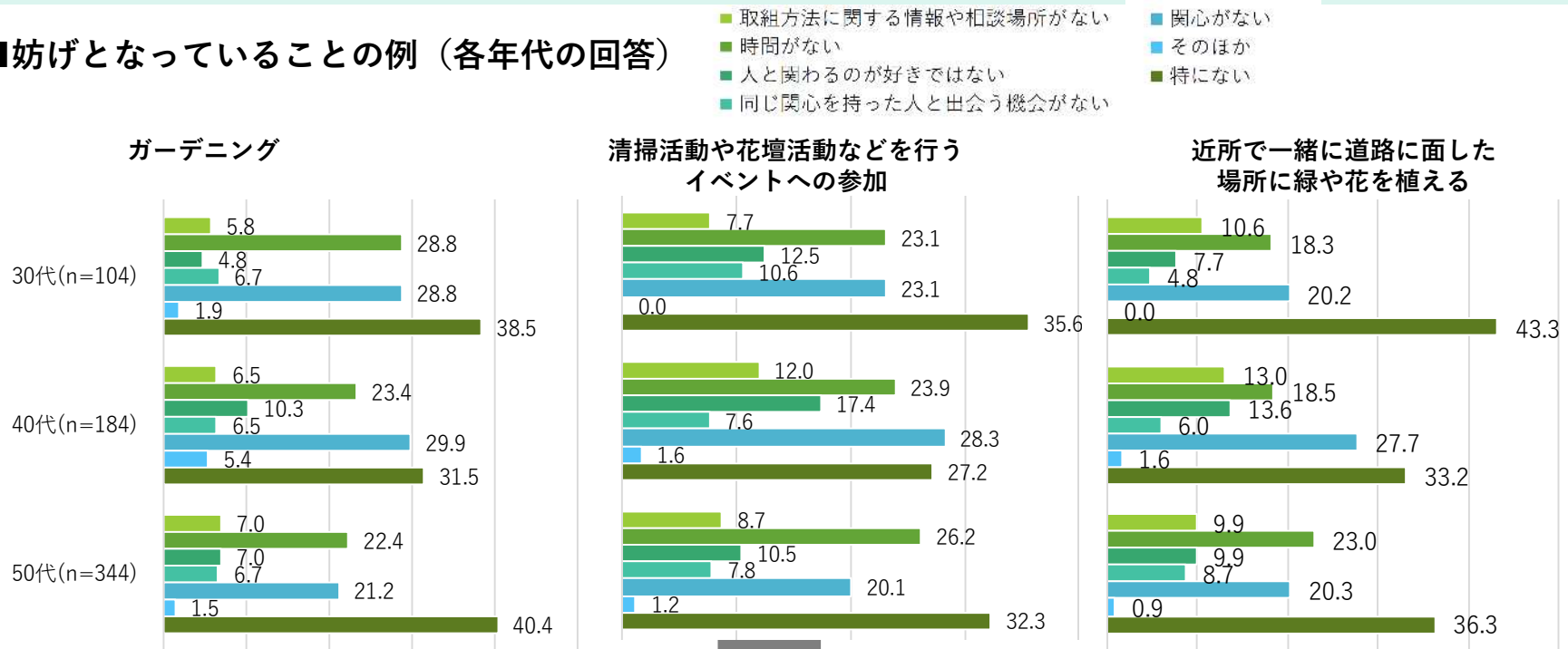
緑や水辺によって、まちを今よりも魅力的なものにするためにしてみたいこと



(3) 30～50代の「取組の妨げ」となっていること

緑や水辺によって、まちを今よりも魅力的なものにするためにしてみたいことの妨げとなっていること

■妨げとなっていることの例（各年代の回答）



主として「関心がない」ことが妨げになっており、また「特にな」も多い。

➡ まずは、緑・水辺に関心を持つきっかけをつくることが大切

また、「時間がない」ことが妨げになっている。

➡ 短時間でも参加可能な活動を知ってもらうことや、活動を体験できる機会をつくり、活動内容や所要時間についてイメージをもってもらうことが必要

そのほか「取組方法に関する情報や相談場所がない」「人と関わるのが好きではない」も理由の一つ

(4) まとめ

アンケートから読み取れる ポイント

「関心がない」「時間がない」ことが妨げになっており、また「特にない」も多い

緑や水辺によって、まちを今よりも魅力的なものにするためにしてみたいことが「特にない」の回答が多く、「協働できること（担い手として取り組むこと）」をイメージできていない可能性がある

結果を踏まえた参加促進の課題

まずは、**緑・水辺に関心を持つきっかけ**をつくる
ことが大切

活動を体験できる機会をつくり、活動内容や所要時間について、**イメージをもってもらうこと**が必要

短時間でもできる、活動時間が選べるなど、**様々な活動の創設**や取組方法や相談場所に関する**情報発信**も必要